

## Topic 09 国境を越えて学ぶ — Long Beach City Collegeとの交流



四日市市と姉妹都市である米国ロングビーチ市のロングビーチシティカレッジ (LBCC) から、学生22名と教職員9名が6月25日、本学を訪れました。文化体験や講義を通じて本学の学生との交流を深め、国際的な学びの場として充実した一日となりました。はじめに伊勢型紙愛好会の協力で、三重県の伝統工芸である伊勢型紙の制作体験を実施。参加者は真剣な表情で彫刻刀を使い、

模様を彫り上げていました。続いてアドミッションセンターでは茶道部や留学生などのサポートを受けながら茶道体験を行い、LBCCの学生は抹茶や茶碗の意味について積極的に質問するなど、日本文化への関心の高さがうかがえました。その後は「ビジネス英語C」の講義に参加し、互いの大学生活を日本語と英語で紹介。学生同士が学び合い、異文化理解を深める貴重な交流となりました。



## Topic 10 地域と大学をつなぐ学び — 鳥出神社の鯨船行事に参加



総合政策学部の講義「総合政策特別講義b」の一環として、9月27日・28日にユネスコ無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」に参加しました。鯨船山車が鯨を撃ち取るまでを再現した伝統行事で、中島組神徳丸の皆様の協力のもと、町練りや本練りを通して地域の方々と交流し、四日市の歴史と文化、祭りの意味を体感しました。人口減少や高齢化が進む中で、地域行事を継続する意義を学ぶ貴重な機会となり、地域と大学をつなぐ学びの実践の場になりました。

## Topic 11 名張市で人口減対策の特別委員会を設置 — 四日市大学が調査・分析で協力

名張商工会議所と名張市、四日市大学は7月、人口減少対策を検討する「人口減対策特別委員会」を設置しました。名張市では現在、年間約900人の人口減少が続いており、少子高齢化や若者の転出が課題となっています。委員会には約50名が参加し、「自然減」「社会減」「外国人」の3分野に小委員会を設置。若者や子育て世帯、外国人住民へのアンケート調査を実施し、兵庫県明石市や岡山県奈義町などの先進地を視察する予定です。本学は、調査やデータ分析を通じて地域課題の把握と施策の検討に協力します。またこの調査には本学の学生たちも協力しています。

産官学が連携して人口減少に向き合う取り組みとして、今後の成果が期待されます。



学生たちの活動やオープンキャンパスの最新情報はInstagramをチェック!



(発行) 総務課  
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200  
(受験生サイト)  
<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/admission/>

## 四日市大学の最新情報をお届け!



# campus for you

17  
2025.06~10

### contents

- P.1 ▶ 伊勢湾での海洋実習を実施 — 豊かな海・伊勢湾の環境と生物を学ぶ
  - ▶ 若者の声で地域を動かす — 川越町で学生が政策提言
- P.2 ▶ 神戸で国際交流を満喫 — 留学生・日本人学生が研修旅行を実施
  - ▶ 伊勢湾のゴミをゼロに — 22世紀奈佐の浜プロジェクト
  - ▶ 地域とともに学ぶ — 子ども食堂で見つけた“支え合い”の形
- P.3 ▶ 全日本学生テニス選手権出場 室井選手・長谷川選手を学長が表彰
  - ▶ スタジオから広がる創造力 — レコーディング実習で音づくりを体験
  - ▶ 地域と共に学ぶ — 企業連携プロジェクト「紀伊のじゃばらシロップ」誕生
- P.4 ▶ 国境を越えて学ぶ — Long Beach City Collegeとの交流
  - ▶ 地域と大学をつなぐ学び — 鳥出神社の鯨船行事に参加
  - ▶ 名張市で人口減対策の特別委員会を設置 — 四日市大学が調査・分析で協力

## Topic 01 伊勢湾での海洋実習を実施 — 豊かな海・伊勢湾の環境と生物を学ぶ

環境情報学部では、学生23名が参加する2泊3日の伊勢湾海洋実習を8月4日から6日にかけて、三重大学の練習船「勢水丸」をお借りして実施しました。

本実習では、船上での共同生活を体験しながら、海洋環境の観測および海洋生物の採集を行いました。期間中は天候にも恵まれ、海が非常に穏やかで、船酔いや体調不良もなく、予定していたすべての調査を無事に終えることができました。



学生たちは、初めての船上生活に緊張しながらも、積極的に観測や採集に取り組みました。海洋観測では、装置を用いて海水温や塩分を測定し、採取した水を実際に触れることで、表層と底層の水温差を体感しました。講義で学んだ、水深によって水温が急激に変化する層である「水温躍層」について実際の体験を通して理解することで、伊勢湾の環境をより具体的に捉えることができました。

また、ベントスネットを用いた生物採集では、ネズツボ類やカレイ類、アカエイなど多様な魚類が採取され、大学に持ち帰って種類の同定や計測を行いました。

今回の実習を通して、学生たちは海洋環境について実際に海へ行き学ぶことの意義を実感するとともに、三重大学勢水丸の船員の皆様や関係者の支援のもと、充実した学びの時間を過ごしました。



## Topic 02 若者の声で地域を動かす — 川越町で学生が政策提言

総合政策学部・吉川ゼミの2年生5名と岡ゼミの3年生3名が、川越町の「若者にとって暮らしたい・働きたいまち」をテーマに研究を行い、7月24日に川越町役場で成果を報告しました。

学生たちは4~7月にかけて「若者会議」を立ち上げ、SNSを活用した地域の魅力を発信する方法を考え、TikTok (短編動画アプリ) による情報発信の提案をしました。

今回の取り組みは、川越町が策定中の第7次総合計画後期基本計画へ若者の意見を反映する目的として実施されたものです。



## Topic 03 神戸で国際交流を満喫 — 留学生・日本人学生が研修旅行を実施

毎年恒例の留学生・日本人学生交流研修旅行を9月11日に実施し、学生61名・教職員3名の計64名が神戸を訪れました。

午前中はリトルクラフト神戸でハーバリウム作りを体験し、色とりどりの花材を使って個性あふれる作品を完成させ、さっそく、作品をSNSにアップしている学生もいました。昼食後は南京町や元町通りを散策し、神戸の多文化的な街並みやグルメを楽しみました。その後、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を訪問し、語り部の体験談を通して命の尊さや防災の大切さを学びました。

この研修を通して留学生と日本人学生との交流を図ることができ充実した一日を過ごすことができました。



## Topic 04 伊勢湾のゴミをゼロに — 22世紀奈佐の浜プロジェクト



10月11日・12日に答志島で行われた「22世紀奈佐の浜プロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは、愛知、岐阜、三重の3県が協力して伊勢湾流域の漂着ゴミを減らして、100年後にはゴミをゼロにしようという活動です。四日市大学からは、環境情報学部の学生4名と教員3名、そしてOB3名の10名が参加しました。

合宿には岐阜大、三重大、信州大、愛知学院大、金沢大、四日市大の計46名（うち学生40名）が参加し、一緒に釣りをしたり、答志島の食材を調理して朝食と夕食を食べて交流しました。学生交流会では大学混合の班編成で海洋ゴミ問題について議論を行い、友情と学びを育みました。参加した本学の学生にとっては、大きな刺激となり、また他大学の学生との繋がりを得る機会になりました。夕方や夜の釣りでは、大型のアオリイカ、タイ、カサゴ、アジなどが沢山釣れて、学生たちは大いに盛り上がりました。

10月11日には若手の漁師、桃取町内会長、鳥羽市農水商工課職員、中村元鳥羽市長、学生、教員、22世紀奈佐の浜プロジェクトの関係者に参加いただき、奈佐の浜のアマモ保全に関する会議を行い、ゴミ問題だけでなく、伊勢湾に豊かな海を取り戻す方法について意見交換を行いました。会議には、大変有益な意見交換ができ、今後の漁業者、町民、行政、学生や研究者によるアマモ場保全のための体制作りについて第一歩を踏み出すことができました。

## Topic 05 地域とともに学ぶ — 子ども食堂で見つけた“支え合い”の形

総合政策学部の講義「地域福祉論」では、地域で活動する方を招き、現場の声から福祉を学ぶ講義を行っています。

6月27日には「子ども食堂四つ葉SK」代表の松岡志佳さんをゲストに迎え、子ども食堂が持つ「安心できる居場所」としての役割について学生とともに考えました。

講義では、不登校やひきこもりの若者、子育てに悩む保護者への支援の方法などが紹介され、身近な話題もあり学生からも活発な質問が出るなど、学びの深まる時間となりました。



## Topic 06 全日本学生テニス選手権出場 室井選手・長谷川選手を学長が表彰



テニス部の室井卓海さん（環境情報学部4年）、長谷川大豪さん（総合政策学部2年）が2025年度全日本学生テニス選手権大会に出場した功績を称え、課外活動報奨金授与式が執り行われました。式では学長から、日頃の練習の積み重ねと全国大会での健闘に対し、労いと称賛の言葉が贈られました。

本学では、学生が学業と部活動を両立しながら全国レベルで活躍することを大きな誇りとしています。長谷川選手は今シーズン東海学生テニス選手権大会で優勝するなど輝かしい結果を残しています。今回の授与式は、両選手の努力と成果を大学全体で讃える機会となり、後輩や在学生にとっても大きな励みとなりました。

## Topic 07 スタジオから広がる創造力 — レコーディング実習で音づくりを体験

環境情報学部の2年生を対象とした講義「基礎演習」において、9月24日から10月15日までの4週間にわたり、本学のスタジオにおいてレコーディング実習が行われました。

この講義は、今後の研究や制作活動に向けて必要な基礎力を身につけることを目的としており、足立先生の指導のもとで実施されました。

学生たちは、スタジオで録音した音声データをもとに、DAW（オーディオ編集ソフト）を使ってミキシング作業を体験しました。



音量や音質の調整を通して、音づくりの基礎的な工程をじっくりと学び、作業の流れや仕組みを理解しました。

講義では、録音から編集までの一連の流れを実際に体験することで、音響制作の現場さながらの学びの機会となりました。今後もこうした実践的な授業を通して、学生たちが自らの感性や技術をさらに磨いていくことが期待されます。

## Topic 08 地域と共に学ぶ — 企業連携プロジェクト「紀伊のじゃばらシロップ」誕生

総合政策学部の学生が、レディオキューブFM三重・卵卵ふわあ〜む・紀北町と連携して進めてきた地域連携プロジェクト「紀伊のじゃばらシロップ」が完成し、10月25日の大学祭で正式販売を行いました。紀北町の特産品である「じゃばら」をより多くの人に知ってもらうため、学生たちはマーケティングを学びながら、味やパッケージデザイン、活用レシピ、広報戦略などを検討し、何度も試飲会や打ち合わせを重ねて商品化を実現しました。当日の大学祭では試飲した多くの来場者から「香りが爽やか」「体にやさしい味」といった声が寄せられ、大変好評につき、予定数に達したため、販売を終了いたしました。また、四日市旧港で開催された「BAURAミーティング」でのプレ販売でも学生たちが自ら商品説明や試飲対応を行い、地域の方々との交流を深めました。今回のプロジェクトでは、レシピ考案やボトルデザイン、SNSでの発信など、マーケティングの実践を通して「地域と共に学ぶ」経験を積むことができました。学生たちは今後も地元企業・自治体と連携しながら、地域の魅力を発信する新たな商品開発を目指していきます。

